大阪市教

2025年 10月2日
VOL. 628

発行 大阪市学校園教職員組合
大阪市中央区法円坂1-1-18（大阪市教育会館7階）
TEL 6910-8700 FAX 6910-7990

6年生だけ中学校舎

佃中校区統廃合

保護者・住民の不安・疑問続々

「佃中学校区における学校配置の適正化について」6月30日住民説明会がおこなわれました。

佃小学校を佃西小学校に統合（佃西小学校舎を活用）が考えられる。教室の改修を行っても全児童を収容することができない。「佃中学校も含めた小中一貫校としての再編」とする（小学区と中学校の校舎が離れているので施設連携型）。「5年生までを小学校校舎、6年生から中学校校舎で学んでいただく、5・4制として再編したい」。

保護者・住民の不安が広がり9月2日に学習会（写真）が開かれ大阪市教の宮城委員長が報告しました。

小学生と中学生が同一空間で学校生活を送るようになると6年生のリーダーシップ獲得に課題があり友人関係にも、「やればできる」の指標で否定的傾向など心理学研究により指摘され（「6年生問題」）、現場からは中学生も委縮するとの報告もあります。

校舎改築費を惜しみ6年生だけ中学校に通学させる案は、施設一体型の小中一貫校よりも更に問題です。当然、保護者・住民の不安・疑問が大きく広がりました。

市教委は25年4月「学校配置の適正化の推進のための指針」を改正し、保護者や住民の反対の声があっても統廃合を強行する方針を改めて示しました（別項参照）。

●市教委の指針より抜粋

しかしながら、保護者や地域住民等の主体性に委ねた進め方では関係者間の意見がまとまりにくく、取組の必要性に対する認識が共有されない状況が生じ、協議が長期化することも少なくない状況になった。

府立高校32校減

高校つぶしでなく30人学級

「15年間で32校減」撤回！門真西高校・懐風館高校なくすな！高校つぶしでなく30人学級の実現を！大阪の高校を守る会決起集会が9月20日開かれました。

府立高校アクションプラン案は24年度に生まれた子どもの数をもとに、15年後の府立高校数を「104校程度（32校減）」と試算。奥野喜久夫会長は主催者挨拶で、「計画ではなく数合わせ」と批判しました。

懐風館高校を廃校すれば羽曳野市内の高校はゼロになります。門真市は1校になります。「自転車で通える学校がなくなる」「定期代が高くて行けない」「地域が壊れる」の声が上がり続けています。（府立高校はすでに40校廃校）

府は全国から見て過大・過密な「40人学級・1学年7クラス」の学校規模。「30人学級」なら1校も減らす必要はありません。

「3年連続して定員に満たない高校は再編整備の対象」の条例を撤廃させ、子どもたちの学ぶ権利を保障しましょう。

市対連

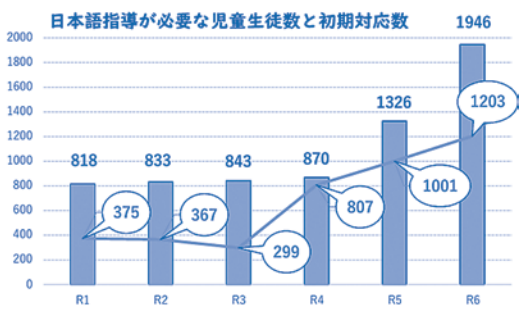
小学校体育館空調を
テスト漬けやめ少人数学級

大阪市対策連絡会議（市対連）は9～12月大阪市会の開会日の9月18日、「公教育・福祉・医療・介護　誰も取り残さない市政を」の横断幕を掲げ、淀屋橋で宣伝を行いました。

〝大阪市は全国一高い介護保険料を下げて下さい〟〝税金はくらし応援に使って！〟のビラを配布しました。

リレートークで、「万博が終わっても夢洲街づくり構想が続く」（共産党井上市議）、「万博建設工事費の未払いで業者が大変。協会の責任重大」（大阪市をよくする会）、「小学校体育館に空調を直ちに。外国につながる児童生徒が増えています。教職員を増やしてください」（新婦人）、「介護保険料の引き下げ、高齢者施策の充実拡充を」（年金者組合）、「不登校急増の原因テスト漬け競争教育をやめ、少人数学級実現、隠れ教育費軽減の陳情署名を広げよう」（大阪市教）と訴えました。

教育振興基本計画改定（案）の特に方向性の確認の必要な事項として、「外国につながる児童生徒等への支援が総合教育会議（7月29日）で確認されました。24年度の日本語指導が必要な児童生徒数は1946人、初期面談1203件となっています。「教職員の負担が増加」「急激な増加に十分対応できておらず」としています。教職員増が求められています。



ガーベラだより

講師に2級適用を
能力実証　正規採用を

「労働条件要求書」を9月18日教育委員会に提出しました。臨時教職員部は「…講師・養護助教諭が『教育職給料表』の『1級』、学校栄養職員…には『医療職給料表』が適用されています。…『教育職給料表』の『2級』が適用されている教諭・養護教諭・栄養教諭とは明らかな給与格差があります。…多くの講師が学級担任や特別支援学級担任、部活動の指導など正規職員である『教諭』と全く同じ内容の職務を任され…少数職種である『養護助教諭』や『学校栄養職員』は、正規職員である『養護教諭』や『栄養教諭』と職務内容を区別することは、もはや『不可能』です」と要求しました。

今年の「大阪市現職講師特例」の「二次試験」合格率は「養護教諭（小・中共通）」10・3％、「栄養教諭」25％で、不合格になった「養護助教諭」・「学校栄養職員」の多くは来年3月に「任用」されます。「能力の実証」（地公法15条）された「非正規教職員」を正規採用しない採用制度は許されません。

たんぽぽだより

10月

気候も涼しくなり、暑い間休み時間は教室で一人一台端末でタイピングやプログラミングゲーム作成に励んでいた子どもたちも運動場で遊べるようになり、鬼ごっこや遊具で遊ぶ子どもたちの楽しそうな声が聞こえるようになりました。

これから教育のつどい大阪10月11日、同日北大阪支部バーベキュー、北大阪支部女性部文化とバザーのつどい11月1日、教育のつどい教科別分科会11月9日、問題別分科会11月23日など沢山行事があります。

働き方改革は進んできましたが、現在青年同士で集うことや学習することが難しい状態です。今一度直接学んだり、交流したりすることができたら良いなと思います。

そして共に活動する仲間が増えたらと思います。近くの分会の仲間にもお声かけください。

市内統一労連へ
非正規教職員処遇改善

大阪労連・大阪市地区協議会第40回定期総会が9月27日開かれました。経営者のパワハラ、労連平和ツアー、バーベキューなど交流の取り組み、保育士不足、高校統廃合などが報告され、市内統一労連結成（26年9月）に向けて各地域労連・単産の取り組みを交流しました。

来賓の井上日本共産党市会議員、嘉満大阪労連事務局長、中山大阪市をよくする会事務局長が万博終了後もカジノ・大型開発を計画している大阪府・市を批判しました。

各支部が地域労連として参加し、討論に三木書記次長が参加しました。大阪市教は非正規教職員の要求で交渉し、教員採用試験突破講座を行っています。講師組合員が教員採用2次試験に複数合格しました。喜びの声が広がりました。一方「能力の実証」がされている現職講師が多数不合格となっています。「教員不足」でも処遇の改善が求められています。賃金格差「月額3万2900円」もあり、正規と同様に給料表2級の適用を求めています。